

2022年2月15日

日本エアーテック株式会社

2021年度12月期（第49期）通期決算説明会  
電話会議における質疑応答（2022年2月15日開催）

第49期業績内容及び今後の見通しに関して

| 質 問   | 回 答  |
|---|--|
| 2021年12月末の受注残は2020年期末と比較し10%減となっており、そのうち感染症関連の受注が2億円程度しかないとのことだが、今後の見通しを教えてください。                  | 2020年期末は、2020年10月以降から2021年3月期末までの納品に向けて、感染症関連製品の多数の受注が有り、その受注残に占める割合も41%でした。<br>2021年4月以降は感染症関連の受注残が、Q2、Q3、Q4とも約2億円程度に減少して推移し、その代わり製薬関連、半導体をはじめとする電子分野の受注が増加し積みあがっている状況です。現時点で、今期2022年も同様の推移を辿るものと推定しております。  |
| 電子関連の受注が増加しているとのことだが、具体的に教えてください。   | 半導体製造装置メーカー（東京エレクトロン様他）、電子部品（京セラ様他）、電子材料（信越半導体様他）多様な業種の顧客より、装置自体に組み込む製品及び製造に関わる設備等のお引合いを頂いております。   |
| バイオ分野の売上が64%、品目別でもバイオリジカリー機器が2020年度比で約15億円伸びている。今後コロナ関連特需がなくなるとすると、バイオリジカリー機器の売上はどの程度になると考えていますか。 | 2021年の「クリーンベンチ・バイオリジカリー機器」の売上は47億円であり、2020年は32億円でした。2022年度は、30～40億円程度になるのではないかと予想しています。その理由として、感染症対策は病院の病床確保など緊急を有する対策から、コロナ薬開発、ワクチン製造体制の増強、コロナ以外の危険な感染症研究への投資など多岐に渡り投資計画があります。それに加え非常時対応から平常時の対応に変化していると考え、介護福祉施設や一般オフィス等の新分野への拡販により継続的な売上の確保を目指しております。 |
| クリーンルームの売上高が2019年度より減少傾向にあるが、今後この品目の売上の見込みを教えてください。   | 半導体・電子分野のクリーンルームは同業界の好調に牽引され、当期（2022年）より復調しております。またバイオ分野のクリーンルームは、感染症研究用のバイオセーフティー対策施設及び再生医療関連の研究施設、がん治療用細胞加工施設等の売上増加が見込まれることから、2019年度の売上高12億76百万円を上回る見込みです。   |

※ 以上の内容は、電話会議開催日（2022年2月15日）時点の情報に基づく内容です。

以上